

日本語ネイティブ留学生をゲストとして呼んだ授業 事例集

***** 目 次 *****

■ 中学校 No.1	自己紹介+数字の活動(「こんにちは」5課)
■ 中学校 No.2	自己紹介+数字の活動(「こんにちは」5課)
■ 高校 No.1	自己紹介+ひらがなの活動(買い物)
■ 高校 No.2	自己紹介+「ありますか」+ひらがなの活動(しりとり)
■ 高校 No.3	自己紹介+電話で友達を誘ってみよう

ここをクリックすると、
そのページに飛びます!

この事例集に掲載されている授業計画案は、国際交流基金ソウル日本文化センター、ボランティア・プログラムに参加した教師の授業計画案をもとに作成したものです。

《注意点》

★計画は教師が立て、授業は教師主導で行います。

- ・ 授業計画案は、留学生が見てわかるかどうかポイントです。
- ・ 留学生が何をするか、はっきり書きます。使ってほしい語彙、発話モデルも書いておきます。
- ・ 授業中、留学生が生徒の習熟度に合わせて話し方をコントロールしたり、自分でリピートの回数を増やしたり、臨機応変に対応するのは難しいです。授業中も、教師が的確に指示を出さなければなりません。

★留学生について

- ・ 日本語教師ではありません。「自由に授業をやってください」と言っても、困らせるだけです。
- ・ 留学生はボランティア。授業のために過剰な準備をさせないよう、配慮が必要です。



留学生をゲストとして呼んだ授業例

中学校 No.1

学校名	** 中学校 (電話 0**-*-*-***)
教師	**** (電話 0**-*-*-***)
留学生	**** (電話 010-*-*-***)
日時	2007年*月*日 (火曜日) 留学生到着時間 09:25 2時間目 (09:55~10:40) 3年*組 生徒数 39名 4時間目 (11:45~12:30) 3年*組 生徒数 37名
教科書・単元	こんにちは 5課 「がんばれ」
目標	数字が言える。数字が書き取れる。計算式が書き取れる。 日本語でいろいろゲームができる

★ 生徒の様子 前提など ★

生徒はすでに5課「がんばれ」を勉強した。この授業の頃は8課をやっている。
数字は0から10000まで言える。生徒に日本語で話して通じたという体験をしてほしい。

★ 授業計画案 ★

00分 あいさつ (2分間)

日本語の班長：気をつけ！ れい！
生徒全員：せんせい、おはようございます。

02分 自己紹介 (6分間)

- 1) 留学生が自己紹介をする。(参考：教科書 p.72)
例)「はじめまして。***です。どうぞよろしく。」
- 2) 生徒2~3人が留学生に自己紹介をする。
- 3) 生徒の自己紹介を聞いて、できれば「こちらこそ、よろしく」「***さんですね？」など受け答えをする。

08分 数字の復習 (5分間)

- 1) 教師が黒板に数字カードをつける。
- 2) カードの数字を指さしながら1~10を留学生が発音した後に生徒が繰り返す。

1	いち	5	ご	9	きゅう
2	に	6	ろく	10	じゅう
3	さん	7	なな, しち		
4	よん, し	8	はち		

- 3) 10~90 留学生が発音した後に生徒が繰り返す。(40,70の発音に注意)
- 4) 100~900 留学生が発音した後に生徒が繰り返す。(300,600,800の発音に注意)
- 5) 1000~10000 留学生が発音した後に生徒が繰り返す。(3000の発音に注意)

13分 数字の書き取り ゲーム (5分間)

留学生が日本語で言う数字を聞いてアラビア数字に変えてミニ・ホワイトボードに書く。
(一番早く書けたグループが優勝)
(325, 447, 639, 816, 3974, 1234, 9999, 15280, 49862, 78243の中から言う。)

18分 計算式の復習（5分間）

- 1) 黒板に 計算符号カードをつける。
- 2) 計算符号を日本語で練習する。(カードの符号を指さしながら、留学生が発音した後に生徒が繰り返す。)(二回ずつ)

+	たす
-	ひく
×	かける
÷	わる
=	は



20分 計算式の書き取り ゲーム（6分間）

- 1) 書き取り練習 (教師が言った計算式を書く)

1 + 2 = 9 - 4 = 3 × 6 = 8 ÷ 2 =

- 2) 留学生が言った計算式をグループごとに書く(一番はやいグループが優勝)

10 + 9 = 83 - 45 = 8 × 6 = 56 ÷ 7 =

26分 「ひとつ・ふたつ」の復習（2分間）

- 1) 黒板に カードをつける。
- 2) ひとつ～とお 留学生が発音した後に生徒が繰り返す。(二回ずつ)

1	ひとつ	5	いつつ	9	このつ
2	ふたつ	6	むつつ	10	とお
3	みつつ	7	ななつ		
4	よつつ	8	やつつ		

28分 いちーひとつ むすび ゲーム（4分間）

- 1) グループの代表が出てゲームをする
- 2) 留学生が「いち」と言ったら、「ひとつ」のカードをとる。(一番早いグループが優勝)

32分 ひとりの復習（2分間）

- 1) ひとり～じゅうにん 留学生が発音した後に生徒が繰り返す。(二回ずつ)

1	ひとり	5	ごにん	9	きゅうにん
2	ふたり	6	ろくにん	10	じゅうにん
3	さんにん	7	しちにん		
4	よにん	8	はちにん		

34分 「来ました」ゲーム（5分間）

- 1) 留学生が言う人数のおおりにすから立つ。(人数と実際に立つ人が一致したグループが優勝)
- 2) 立つ時グループのみんなが「～にんきました」とさけぶ。

39分 優勝グループの発表、授賞（1分間）

40分 質問コーナー（5分間）

※生徒が日本語で留学生に準備しておいた質問をする。

45分 あいさつ

★生徒が考えた質問を教師が翻訳して、質問リストを作り、事前にソウル日本文化センターに提出。センターから留学生に質問リストを送ってもらう。

留学生をゲストとして呼んだ授業例

中学校 No.2

学校名	** 中学校 (電話 0**-* **-* ***)
教師	**** (電話 0**-* **-* ***)
留学生	**** (電話 010-* **-* ***)
日時	200*年*月*日 (月曜日) 留学生到着時間 10:20 3 時間目 (10:50~11:35) 2年A組 生徒数 : 35 名 4 時間目 (11:45 ~12:30) 2年B組 生徒数 : 35 名
教科書・単元	こんにちは 5 課 「がんばれ」
目標	数字および電話番号が言える。

★生徒の様子・前提など★

元気のいい生徒が多いです。

学生は5課の内容はすでに学習したので今度の授業は5課全般を整理する授業です。

数字は0から10まではすでに授業で説明しています。

ゲームと教室活動を通して生徒に日本語で話して通じたという体験をしてほしいです。

留学生への質問は、宿題で考えさせておいて、事前に送ります。

★授業計画案★

(★は留学生の役割)

I あいさつ (1分)

II 自己紹介 (5分)

★留学生が自己紹介をする

例 : はじめまして。わたしは ○○○です。どうぞよろしくお願いします。

生徒何人かが自己紹介する。(生徒は簡単に名前と学年くらい言える。)

★できれば留学生は、「○○○さんですね。」「こちらこそどうぞよろしく」などの返事をする。

III 5課の復習 (全部で40分程度)

①数字の復習1 (いち、に、さん...じゅう)

教師が数字の確認をする。(れい~じゅうまで)

★留学生が「0~10」まで、1回読んで生徒たちがついてリピートする。

→1回で生徒がきちんと言えるようになっていないようなら、教師が留学生に「もう1回お願いします」と言って、もう1回読んでもらう。(2分)

教師の1から10までの数字の確認が終わったら、留学生はランダムに数を言う。

★留学生 : 例) さん、よん、きゅう、になど (1から10までの数字の中で自由に言う。)

留学生が数字を言ったら、生徒は聞いてその数字をノートに書く。(1分)

クラス皆が書いたあと、何人かの生徒は前に出て留学生が読んだ数字を黒板に書く。

★その時生徒が黒板に書いた数字を見て留学生はもう一度読む。(2分)



② 数字の復習 2 (11~40)

教師が「11~40」まで数字の確認をする。(2分)

★留学生が「11~40」まで、1回読んで生徒たちがついてリピートする。

→1回で生徒がきちんとと言えるようになっていないようなら、教師が留学生に「もう1回お願いします」と言って、もう1回読んでもらう。(3分)

★留学生がランダムに2けたの数字をいう。

留学生：例) じゅうなな、にじゅうご、さんじゅうに、さんじゅうきゅう、
何人かの生徒が前に出て留学生が読んだ数字を黒板に書く。

★その時生徒が黒板に書いた数字を見て留学生はもう一度読む。

★留学生は、生徒が黒板に書いたアラビア数字の下に読み方をひらがなで書く。(3分)

※拗音とか濁音の表記にまだ慣れていない生徒のため。

③ 「11 から 35」までの数字を使って、数字のビンゴゲームをする。(57 ページ)

★事前に準備しておいた数字を留学生が2回ずつ言う。

3ビンゴが出るまで続ける。(10~15分)

④ 電話番号

教師は電話番号を問う「電話番号は何番ですか」という表現を確認する。

教師はこの表現を生徒たちに質問して思い出させる。

例) 教師：電話番号は何番ですか。

生徒：〇〇の〇〇〇〇の〇〇〇〇です。

生徒はみんなでこの表現を使って留学生に質問する。

★留学生は適当な電話番号をいう。教師は確認。(1分)

留学生が言った電話番号を生徒が聞いてノートに書く。

これを教師が確認(3分)

★留学生が生徒の出席番号をランダムに呼んで、選ばれた生徒は自分の電話番号をいう。(4人ぐらいする。)(5分)

★生徒が言った電話番号を留学生は黒板に書いて確認する。

⑤ 予備の活動：「計算クイズ」(58 ページ) (時間が余っていたらする)

★「+ - × ÷」を使った計算問題を書いた紙を1枚留学生が持つ。

それを生徒が読んで、早く答えを日本語で言った生徒が勝ち。

1. $3 + 5 =$

4. $4 \times 12 + 2 =$

2. $4 \times 7 - 2 =$

5. $36 - 18 + 9 =$

3. $2 \times 6 \div 3 =$

IV まとめ (3分)

時間が余ったら学生たちが日本の学校の生活など質問の時間を持つ。

質問は宿題で生徒に考えさせて、留学生に事前に送っておく。

V 終わりのあいさつ (1分)

生徒が留学生にお礼を言う。「今日はどうもありがとうございました。」

★留学生も生徒に挨拶をする。(例)「今日はありがとうございました。とても楽しかったです。これからがんばって日本語を勉強してください。」など

■ 目次へ

留学生をゲストとして呼んだ授業例



高校 No.1



学校名	〇〇高校 (電話：02-345-6789)
教師	パクナムソン (携帯：010-12345678)
留学生	山田花子 (携帯：016-87654321)
日時	2007年10月29日(月) 留学生到着時間 9:00 2時間目(9:30～10:20) 2年1組 生徒数35名 3時間目(10:30～11:20) 2年6組 生徒数36名
教科書・単元	1課
目標	自己紹介ができる。／名前を聞くことができる。 聞き返しができる。／確認ができる。 ひらがなを読んで、売店で買い物ができる。 ネイティブに日本語で話してみて、「通じた！」という体験をする。 ネイティブのあとにリピートし、発音を意識する。
宿題	ひらがなの復習

2年1組は元気のいい生徒が多い男子クラス。2年6組は女子クラスで少し静かなクラス。授業中、留学生は日本語しか話さないと伝えてある。

【授業計画案】

00 あいさつ

「おはようございます。」

02 自己紹介

①留学生が自己紹介をする。

例：はじめまして。わたしは山田花子です。〇〇大学の留学生です。どうぞよろしく。

※聞き取れたか、確認。聞き取れていなかったら、もう1度言ってもらおう。

※意味を推測させる。

②生徒が留学生に自己紹介する。

「はじめまして。〔名前〕です。どうぞよろしく。」

★生徒の自己紹介を聞いて、留学生は「こちらこそ、よろしく」「〇〇さんですね?」「もう一度名前をお願いします。」など受け答えをする。

★できるだけ、多くの生徒にチャンスを与える。

15 名前を聞く／聞き返す／確認する

【導入】留学生が生徒に「あのう、お名前は?」と聞く。生徒が答えるまで、何回か聞く。(答えられないときは、となりの生徒に同じ質問を試してみる。)生徒は「Aです。」と答える。留学生は、「Aさんですね?」と聞く。生徒は「はい。」と答える。留学生は生徒が「お名前は?」と聞いてくるのを待つ。生徒が何も言わない場合は、教師が何か言うように促す。そこで、「あのう、お名前は?」が生徒から出るのを待つ。出なかったら、教師が名前を聞くように促す。表現がわかっていなかったら、教える。

【モデル会話提示】教師と留学生が会話モデルを提示する。

A：あのう、お名前は。
B：山田花子です。
A：山田花子さんですね。
B：はい。あのう、お名前は。
A：パクナムソンです。
B：パク…？
A：パクナムソンです。 ※ゆっくりめに
B：パクナムソンさんですね。
A：はい。どうぞよろしく。
B：(こちらこそ、)どうぞよろしく。

【確認】PPTで、モデル会話を見せながら、教師が表現を確認する。

★ポイント①「あのう」の発音

②聞き返し「パク…？」「もう一度お願いします。」「ゆっくり、お願いします。」

③確認「〇〇さんですね。」

【モデル会話の練習】留学生のあとにリピートする。

1回目は、PPTを見ながら。2回目は、PPTを消して、リピート。

【生徒同士、ペア練習】生徒は自分で好きな名前を考える。どんな国の人の名前でもいい。もちろん、本名でもいい。PPTはつけておくと、できるだけ、見ないで練習。

【留学生と生徒の練習】留学生も自由に名前を変えてみる。もちろん、本名でもいい。できるだけ多くの生徒が、留学生とやりとりする。

★聞き返し、確認ができることがポイント

★うまくできたら、「いいですね!」「発音がいいです。」などとほめるようにする。

3.5 キオスクで買い物をする（ひらがなの活動）

教師が売店の説明をする。売店ではほしいものを指して「これ／それ、ください」と言うこともできるが、ほしいものがどこにあるかわからないときは、「〇〇、ください。」と言えればいい。留学生は店員役をする。留学生の手元にすべての商品の紙を3枚ずつ、準備しておく。生徒は、売店に売っているもののリストの紙を持っている。習っていない単語が多いが、ひらがなが読めれば、買い物をする事ができる。1人ずつ、買い物をする。

例) 生徒「あのう、えんぴつ、ください。」
留学生「えんぴつですね。はい、どうぞ。」(えんぴつの絵を渡す。)
生徒「どうも」







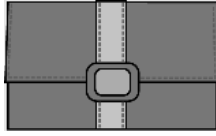




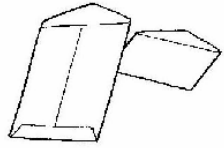
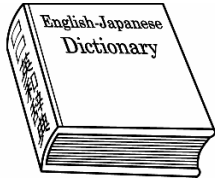


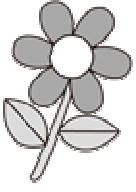



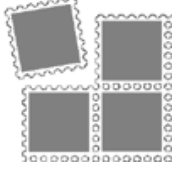
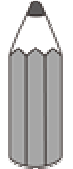

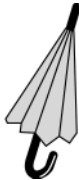
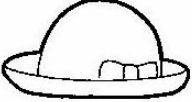

※買い物をする前に、「ください」「どうぞ」「どうも」の発音練習をする。

※留学生は、商品がない場合、「すみません、ありません。」と言う。

※必要に応じて、「～と～」を導入する。

5.0 あいさつ

★★★ 売店の商品リスト ★★★

				
おにぎり	べんとう	りんご	みかん	やきいも
				
おかし	さいふ	すし	すいか	だんご
				
たいやき	ふうとう	じしょ	くつした	ふくろ
				
はな	ざっし	まんが	しんぶん	きって
				
えんぴつ	はさみ	かさ	ぼうし	はし

[■ 目次へ](#)

留学生をゲストとして呼んだ授業例

高校 No.2

学校名	〇〇高校 (電話：02-345-6789)
教師	パクナムソン (携帯：010-12345678)
留学生	山田花子 (携帯：016-87654321)
日時	2007年10月29日(月) 留学生到着時間 9:00 2時間目 (9:30 ~ 10:20) 2年1組 生徒数35名 3時間目 (10:30 ~ 11:20) 2年6組 生徒数36名
教科書・単元	成安堂1・2課
目標	自己紹介ができる。 あるか、ないかの確認ができる。 ネイティブの日本語を聞いて、理解できる。 知っている表現を使って、話してみる。 ネイティブの発音を真似してみる。
宿題	自己紹介を考えてくる。 「好きな〇〇は～です。」(←自由に考えてくる。) ひらがなの復習

★前の時間に留学生は授業中は日本語しか話しないと事前に伝える。また、がんばって日本語で話してみるように促す。

★「好きな〇〇は～です。」という表現は新しい表現だが、宿題にしてみた。一人一人の個性が出ることを期待している。わかりにくくても、聞いてあげてほしい。

【授業計画案】

1) あいさつ

2) 自己紹介 15分

①留学生が自己紹介をする。

「はじめまして。山田花子です。〇〇大学の留学生です。趣味は××です。どうぞよろしく。」

※聞き取れたか、確認。聞き取れていなかったら、もう1度言ってもらおう。

※自己紹介の表現を確認。留学生のあとにリピートする。

「はじめまして。パクヘジンです。どうぞよろしく。」

②生徒が一人一人自己紹介する。(全員)

「はじめまして。[名前]です。好きな〇〇は～です。どうぞよろしく。」

※留学生は、「[名前]さんですね」とか「〇〇ですか。」などと、簡単に答える。

3) 存在表現 (あります) 20分

①語彙の確認

語彙の絵カードを準備する。

絵カードを使って、語彙の確認をしながら、留学生のあとにリピートする。(2回ずつ)

次に、同じ絵カードを使って、「〇〇がありますか。」という文で練習する。

※テンポよく、少し速く練習する。

※できるだけ、留学生の真似をするように促す。

※語彙：コンピューター・ピアノ・本・辞書・雑誌・ノート・地図・机・

ピザ・ハンバーガー・コーラ・コーヒー・ケーキ・すし・はし・キムチ

②グループ対抗、「ありますか」ゲーム

箱に、絵カードを入れる。このとき、全部は入れない。

留学生は箱を持ち、中のものを確認する。

グループごとに、箱の中のものを推測し、「〇〇がありますか。」と順番に質問する。

留学生は、「はい、あります。/いいえ、ありません。」と答え、カードがあつたら、点数を与える。箱の中のカードがなくなったら、カードを入れなおす。点数が一番高いグループの勝ち。

3) しりとりゲーム (ひらがなの活動) 15分

全員立つ

留学生が何か好きな言葉を言う。例「キムチ」

生徒は、「ち」で始まる言葉を、教科書の後ろの索引から探す。例「ちかい」

一番速く答えた生徒は座ることができる。

次に、留学生は「い」で始まる好きな言葉を言う。

留学生と生徒とで、全員が座るまで、しりとりを続ける。

(留学生 → 生徒1 → 留学生 → 生徒2 → 留学生 → ……)

一番最後の生徒は罰ゲーム！(歌を歌う)

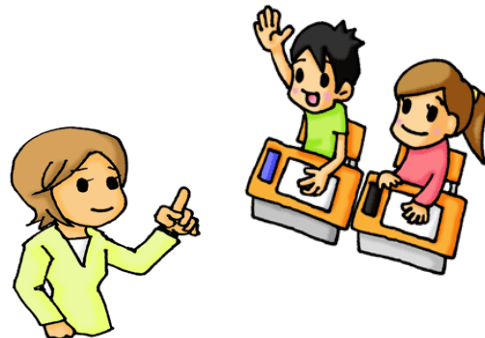
※留学生が言う言葉は、意味がわからなくてもいい。通訳が必要な場合は教師がする。

※教師は、でてきた言葉を順番に、黒板に書く。

※「ん」で終わる言葉を言った場合は、「ん」の前の言葉を使って、続ける。

例「かばん」のときは、「ば」で始まる言葉

4) あいさつ



■ 目次へ



学校名	〇〇高校 (電話：02-345-6789)
教師	パクナムソン (携帯：010-12345678)
留学生	山田花子 (携帯：016-87654321)
日時	2007年10月29日(月) 留学生到着時間 9:00 2時間目(9:30 ~ 10:20) 2年1組 生徒数35名 3時間目(10:30 ~ 11:20) 2年6組 生徒数36名
教科書・単元	大韓教科書 5課「もしもし、ソラですが」
目標	自己紹介ができる。 誘ったり、誘いを受けたりすることができる。 ネイティブの日本語を、がんばって聞いてみる。(どのぐらいわかるか?!) ネイティブに日本語で話してみ、「通じた!」という体験をする。 ネイティブのあとにリピートし、発音を意識する。
宿題	自己紹介を考えてくる。

2年1組は元気のいい生徒が多い男子クラス。2年6組は女子クラスで少し静かなクラス。

自己紹介は忘れていた生徒もいると思われる。(宿題にしてある。)

誘い方はすでに授業で説明しているが、発話練習はあまりしていない。

授業中、留学生は日本語しか話さないと伝えてある。

【授業計画案】

00 あいさつ

02 自己紹介

①留学生が自己紹介をする。

例：はじめまして。わたしは山田花子です。東京から来ました。

〇〇大学の2年生です。キムチチゲとチャプチェが好きです。どうぞよろしく。

※聞き取れたか、確認。聞き取れていなかったら、もう1度言ってもらおう。

②生徒が留学生に自己紹介する。

★まず、希望する生徒に手をあげてもらおう。

手があがらないときは、留学生が自由に出席番号を言う。

★生徒の自己紹介を聞いて、できれば留学生が「こちらこそ、よろしく」「〇〇〇さんですね？」

「もう一度名前をお願いします。」など受け答えをする。

★できるだけ、多くの生徒にチャンスを与える。

15 電話での誘い

①ドリル (10分)

※生徒が留学生のあとにリピートする。教師は留学生の横で絵カードを見せる。

※(1)(2)は2回ずつ。(3)(4)は1回ずつ。テンポよく。

「～ませんか」のイントネーションに注意させる。

(1)コンサートに行きます。テニスをします。映画を見に行きます。

ピザを食べに行きます。山登りに行きます。

(2)コンサートに行きませんか。

(3)いっしょにコンサートに行きませんか。

(4)日曜日いっしょにコンサートに行きませんか。

②談話練習 プリント ※BさんがAさんに電話をかけて、誘う。



(電話のベル)

A: はい、〇〇です。

B: もしもし、△△です。

A: あ、△△さん。こんにちは。

B: 〇〇さん、日曜日いっしょにコンサートに行きませんか。

A: 日曜日ですか。いいですよ。

B: じゃ、1時に学校の前で会いましょう。

A: 1時に学校の前ですね。わかりました。

B: じゃ、日曜日に。

A: ええ。じゃ、また。

(電話を切る)

(1)教師と留学生がモデル会話をする。(2回)

(2)教師が場面と意味を確認する。

(3)生徒が留学生のあとにリピートする。(2回)

(4)生徒がペアになって、会話練習。紙を見ずにスラスラ言えることが目標。

スラスラ言えるようになったら、今度は自分たちで自由に会話を考える。

※その間、教師と留学生は、机間巡回する。

(5)何組かのペアに当てて、発表させる。(できれば、自由に考えたもの。)

(6)まとめとして、生徒が留学生を誘う。(できれば、自由に考えたもの。)

※留学生は断ることもできる。「すみません、日曜日は、ちょっと…。」

45 質問コーナー

※生徒が日本語で留学生に準備しておいた質問をする。

例) コンピュータゲームは好きですか。

大学は何時に始まりますか。

うちから大学までバスで行きますか。など

★生徒が考えた質問を教師が翻訳して、質問リストを作り、事前にソウル日本文化センターに提出。センターから留学生に質問リストを送ってもらう。

50 あいさつ